



学園祭は充実した時間が過ぎましたか？

今回は高体連・高文連中の「読書の時間」で書いてもらった感想を紹介しします。☆印は米高にありますので、借りにきてくださいね。

感想いろいろ!!



☆『魔眼の匣の殺人』 今村昌弘／著

屍人荘の殺人の続編。物語の書き出しはいつも食堂の場面で「サバの照り焼きこそ本格推理だ。」という書き出しで物語に一気に吸い込まれる。まだ読み始めたばかりだが、事件が起こるまでの流れや描写が細かくておもしろい。(2年)

☆『か「く」「し」「ご」「と」「』

住野よる／著

いつも明るいあの人や何を考えているのか分からない人でも、この本を読んでからはちゃんと考えたり、周りを見て行動できる人だとわかり、日常生活がおもしろくなるような気がした。著者の言葉選びもステキで、読んでいて私も主人公のクラスの一員のような気分になった。(1年)

☆『うちら棺桶まで永遠のランウェイ』

kemio／著

人それぞれ考え方はそれぞれあるし、同じ人なんかいないから、誰かになろうとかじゃなくてなりたい自分になろうと思いました。つらいこともたくさんあるけど、「陰がなかったら、光れない」みたいに、辛いことの先には明るい、楽しいことが待っていると思って頑張ってみようと思いました。(2年)

☆『小説 消えた初恋』 宮田光／著

青木が片思いしている橋本さんから消しゴムを借り、消しゴムに名前を書くと両思いになれるおまじないで井田くんと書かれていた。それを見た井田が勘違いして始まった恋。友達として過ごしていたのにいつしか本当に恋してしまい、周囲にはバレないように過ごしていく。本当のことをうまく話せない気持ちが伝わり話の展開が楽しい(2年)

☆『いのちの車窓から』 星野源／著

私は初めて紅白に出演されたときの話がとても好きです。今まで冗談で言っていた紅白出演が現実になってその前口上を親友が書いたというエピソードにとっても感動しました。他にも昔聴かれていたラジオの話、大泉洋さんの話がとてもおもしろかったです。(1年)

☆『人面瘡探偵』 中山七里／著

素直で人を信じすぎてしまう相続鑑定士とその主人公に寄生する現実主義者で毒舌な人面瘡の掛け合いが最高にコミカルで面白いです。人間の闇にまみれた限界集落で頑張る主人公を応援したくなる本です。毒舌なのに主人公に対する優しさを感じられる人面瘡の話方や2人(?)の間の絶妙な友情になごみます。(1年)

☆『ホワイトラビット』 伊坂幸太郎／著

冒頭の神話がおもしろかった。ポセイドンの子であるオリオンは女神に良く思われず、サソリを送り込まれてしまい、刺されてしまった。オリオンはさすがに毒に勝てず一巻の終わりという話から、空にサソリ座が見え始めると、オリオン座は逃げるように沈むそうだ。(2年)

☆『君の話』 三秋縋／著

千尋が夏風灯火に心を開いていく様子が印象的だった。千尋はあまり人を信用しない人だという印象があったけど、灯火相手ならだまされてもいいと思えるくらい「義徳」の中の彼女が大切な記憶だったんだなと思った。「人は騙されようとする」という所も印象的な文だった。(2年)

←こちらから米高の図書館蔵書検索ができます。

個人の利用画面設定がされています。今まで借りた本や借りている本の延長(1回だけ)、貸出中の本の予約ができます。利用にはIDとパスワードが必要なので司書までお問い合わせください。

☆『ドグラ・マグラ』 夢野久作／著

狂気的な本として有名な作品だが、実際は狂気的な文により真相がわからないようにされている推理小説であると思う。狂気の演出のための文がのちに伏線であると分かり、真相に近づいているのがおもしろい。ただ作者が本当におかしくなっている気もするので怖い。(1年)

☆『一冊でわかるイギリス史』

小林照夫／著

いままでの歴史の授業でイギリスの歴史を深く勉強することがなく、イギリスはどんな歴史をたどってきたのか気になっていたのでこの本を読むことで、深く知ることができたので良かったしおもしろかった。(1年)

☆『生きてさえいれば』 小坂流加／著

話の展開がコロコロ変わって、読んでいてあきなかった。主人公たちの会話のところも多かったし、話に出てくるみんなが魅力的で読みやすかった。小坂流加さんのこの本以外の本も読んでみたいと思った。(2年)

☆『四つの署名』 コナン・ドイル／著

続きから読み始めて、まだ半分も読んでいないので、事件が少しずつ進んでいる感じだから、早く急展開しないかなあと思って読んでいた。内容が難しいので、理解するのが難しい。(2年)



☆『硝子の塔の殺人』 知念実希人／著

物語が結末から始まり、徐々に時を戻していく展開になっていて、「なぜこうなったのか」考えながら読むことができ、読んでいて面白かったです。細かい描写で物語の雰囲気がよく分かりました。(2年)

☆『人間失格』 太宰治／著

幸せとは何だったのだろうか？彼が本当に人間失格だったのかを考えさせられる物語でした。どの道歩んでいけば正解で、どこがいけなかったのか、人生の疑問などが書かれてあってとてもおもしろい作品でした。(2年)

『20代で得た知見』 F／著

著者がこれまで生きてきて学んだことや、周りの友人、知人から得た知見を著者なりに再解釈していて、その人の考え方がよく見える本だった。「ずっと好きでいるなんて誰にもできない」という言葉が印象に残った(2年)

☆『かがみの孤城』 辻村深月／著

登場人物の心情描写がとても丁寧ですごく感情移入しました。たくさんの謎が最後にわかっていくのがすごく爽快で、本を読むのが苦手な私でも3日ほどで読んでしまいました！(2年)

『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条岬／著

まだ途中までしか読めていないが、出だして書かれた恋人の条件に引きつけられ、どんどん読み進めていきたくなります。主人公や登場人物の成長に心打たれ、感動しました。この先どんな展開があるのかとても楽しみです。(1年)



☆『老人と海』 ヘミングウェイ／著

漁師の老人が海でとても長い時間と体力をかけて大きな魚をとるが、帰りにたくさんの鮫に魚を食いとられてしまう。文章を読んでいると老人の希望と絶望がとても感じられた。漁の大変さがとても生々しく書かれてあり、思わず読み入ってしまった。最後にあった訳者の文で、この本についての理解が深まりおもしろかった。(1年)

☆『線は、僕を描く』 砥上裕将／著

高校時代に両親を交通事故で亡くし、以来心を閉ざしてしまっていた大学生の青山霜介が水墨画の巨匠、篠田湖山に見出され、水墨を始めていく中で、世界の美しさなどに気づき、心を開いていく。最後には目頭があつくなる様な作品。(1年)

☆『蟹工船』 小林多喜二／著

歴史の授業で著者を習い歴史の背景を感じながら読みました。今では労働者についての捉え方は大きく変化しているけれど、この時代の考え方は現在にも結びつくところがあって、おもしろかったです。2、3年後に読み返すと別の観点から読めそうな本だと感じました。(1年)

『願いながら、祈りながら』

乾ルカ／著

法曹の道に進もうと考えている分校の教師が子どもたちが大人になれば僕なんて忘れると言ったときに、忘れるかどうかはあなた次第だと言われている、自分次第でかわっていく相手も変わっていくことが分かった。(1年)

『私の家では何も起こらない』 恩田陸／著

1つ1つの短編がつながりあっていて、そのつながりを見つけたときのゾクゾクと気持ちのよい興奮がクセになりました。登場人物が語るような書き方になっているので、あたかも自分が登場人物になり、実際に話を聞いているかのような気持ちになれ、本の中に入り込んだ気分になりました。恩田陸さんの本が好きです。(1年)

☆『きみの存在を意識する』

梨屋アリエ／著

さまざまな障がいを抱えた中学生が平等な扱いを受けられないというリアルな話でした。自分は普通ではないのか、そもそも普通というものは存在するのかという疑問や、孤立したくない、いい人でいたいという葛藤に私も平等について改めて考えさせられる本でした。(2年)

☆『時限病棟』 知念実希人／著

この本は『仮面病棟』の続きになる本です。何回読んでもおもしろい謎とき小説です。この本だけを読むだけでも面白いですが、前作の『仮面病棟』を読むとより一層面白くなります。この本は物語が淡々と進むので、あきることなく最後まで読むことができます。(1年)

☆『ないものねだりの君に光の花束を』

汐見夏衛／著

2つの物事を同時に行うと中途半端だなど思うことがよくあるけれど、2つどちらも頑張ったなら、どちらかの頑張りが減るのではなく2つ合わせた頑張りの量が増えるだけなんだなと思い、少し元気が増えました。(2年)

☆『月の満ち欠け』 佐藤正午／著

死んでしまった女の子がまた別の人として生まれかわっていくという物語です。前世の記憶を持ちながら生きる女の子と前世でかわった人たちのお話は不思議だけど、命の大切さや尊さを改めて感じさせてくれます。(2年)

キリトリ

この本読み
たいです!!



予約・リクエスト、随時受け付けています。

読んでみようと思う本があったらこの部分を切り取って図書館へGO！
お待ちしています。

題名

著者

年

組

番 名前